

社会福祉法人 真光会 各保育園の昨年度自己評価、およびそれにとまなう今年度の園目標 (抜粋)

園評価の方法について

各園、令和2年度の各園の目標設定のために、①子どもの発達援助5項目、②健康管理食事6項目、③保育環境2項目、④保育内容11項目、⑤子育て支援5項目、⑥多様な子育てニーズ対応1項目、⑦地域の子育て支援2項目、⑧地域の住民や関係機関等の連携7項目、⑨実習・ボランティア2項目、⑩運営方針5項目について、全職員で3段階評価を実施。

そこで、下記のように、(1)令和元年度 当園の問題となった項目、(2)令和2年度/(3)令和3年度 当園としての努力していきたい項目を抽出して、各園の職員室に個人目標とともに掲示し、目標達成率向上に向けての行動基準を作成した。

	高木保育園	今町保育園	天竜保育園	梅北保育園
令和元年度の反省からの改善目標となる項目	<p>研究テーマ「園児の思いに沿った保育を目指して」～園児一人一人が主体の自発的活動を通して共に学び合う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えがおの日、園開放(異年齢交流) わらべうたあそび、運動あそび、表現あそび ・自発的に体験や活動ができる環境の整備(自発的に遊び込める体験「わくわくの日」設定) ・地域子育て支援のあり方や情報提供の仕方を考える。 ・地域との交流(高齢者交流、児童館交流、地域行事参加、近隣・デイサービス訪問) 	<p>1.園児の主体性、保育の連続性について研究を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体性を育む保育の工夫(援助の在り方と時間の使い方、環境づくり) ・真光会指導計画に基づいた領域別指導計画内容の見直しと実践(異年齢グループ活動) ・主体性ある保育展開を目指した職員個々のスキルアップ(私○〇極めます/控えよう3つの言葉かけ) <p>2.開かれた園づくりを実践する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携 ・園開放、一時保育、保育自由参観 ・保護者への働きかけ(保育の見える化、保育参加、個人面談、他) 	<p>「やってみよう!継続の中でも一歩踏み込む気持ちで～基本に戻ろう令和の学び～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭としての学びや共通理解事項の継続、連続性を大切にする ・「わたしたちのちかい」を受け止めていく中で、日々自分に問いかけながら生活する。 ・園内研修や検討会などの進め方(あり方)を見直す ・従来の形にとらわれず、かつ大切なこと、基本的なことは守りつつ、中身を吟味していく ・プラス思考で得意なことを更に高め、不得手なことにも挑戦する。 	<p>「人との触れ合いや豊かな環境構成の中、いのちを大切にすることを育もう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同仏参、園児向け法話、カメさんタイム及びラジオ聴取などを継続し、聞く力、考える力、伝える力を育む保育を目指す。 ・保育教諭等の自己研鑽や脂質向上に努め、お互いの共通理解(報告・連絡・相談・確認・信頼)を深めながら、よりよい環境構成に努める。 ・ウィズデー、ぼかぼかタイムを継続する中で、主体性を伸ばしながら、コミュニケーション能力を持てるようにする。
令和2年度 当園の自己評価項目	<p>自発的に体験や活動ができる環境の整備ということで、園児が自発的に遊び込める体験の「わくわくの日」を設ける。自発的活動に保育教諭等も手探りの状態で取り組んだが、考えていた園児の姿よりも自由にやってみたくてやりたい遊びを見つけることに戸惑いを見せていた。それらの姿を通して、改めて保育を振り返る機会となり、今までいかに与える保育が多かったかということに気付くことができた。試行錯誤しながら活動していくことで、月1日の取り組みではあったが、自分で考え工夫したり好きなことに集中して遊んだりする自発的な姿が見られるようになった。制作が主となった環境構成だったので、今後環境構成を見直し、園児の遊びが広がる活動へと変化できるよう取り組んでいきたい。</p>	<p>1.園児の主体性、保育の連続性については、職員間の連携が不可欠であり、必要なことをその都度話し合っていくことが保育にも反映された。職員一人一人が研鑽して深めている知識やアイデアを共有して、保育の幅を広げつつ、引き続きPDCAを常に意識して進め、園全体の保育の質の向上を図りたい。</p> <p>2.前年度同様、各クラスで領域別指導計画を見直しながら保育を実践した。担当年齢については充実したが、年齢間の接続への意識に欠ける面があった。</p> <p>3.「開かれた園づくり」はコロナ禍で保護者のニーズに応えながらの行事の在り方や、地域とのつながりなど、模索しながらの一年であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園目標をさらに18項目にし、職員一人一人が日々意識できるようにした。しかし枠組の中での取り組みが中心となってしまう今後は主体的な取り組みとなるよう検討したい。 ・今までの形式の概念の見直しを行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、制限されることが多かった。その中でも視点を変えていくことで、運動会・発表会のプログラム構成をはじめ、行事のあり方について、改めて考える機会となった。 ・研修会においては、今後もweb研修が増えていくことと思う。時代の流れに沿って対応する中、職員が少しでも参加可能となるよう時間帯や職員配置の工夫をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以上児クラスは園児と話し合い様々なコーナー、好きな遊びをできるようにしていたが、安全面を最優先してしまい、いつでも取り出せて遊べる環境づくりは、不十分であった。 ・言葉掛けについては、職員一人一人意識はしているが、園児を急かす言葉(はやく、待ってなど)が聞かれることもあった。またそれに対して、職員同士で助言し合う雰囲気作りが十分でなかった。 ・今年度はコロナ禍で地域、小学校との交流、活動が中止になった為交流ができなかった。
令和3年度 当園として努力していきたい項目	<p>「園児の思いに添った保育を目指して」～保育教諭等との関わりを通して生きぬく力を育む～</p> <p>◎自己肯定感・自主性・自発性・意欲をもたせるために意識した環境構成を考え、保育する。</p> <p>◎全体での取り組み 「わくわくの日」自発的に遊びを見つけ、じっくりと遊び込む活動 「えがおの日」異年齢の園児交流</p>	<p>1.園児の主体性、保育の連続性について研究を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①主体性を育む保育の工夫 ②真光会指導計画に基づいた領域別指導計画内容の共通理解と実践 ③主体性有る保育展開を目指した職員個々のスキルアップ <p>2.「開かれた園づくり」を実践する。～コロナ禍、そして未来へ～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域社会との連携 ②園開放、一時保育、保育事由参観 ③保護者への働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・保育の見える化、保育参加、個人面談、園だより、クラスだより、すすくだより、ぶらんこ通信、各種講座 	<p>「たっぷり・じつくり・何度でも」～自由保育・設定保育を考える～</p> <p>天竜保育園の取り組み(17項目)を常に意識して実践する。アクティブラーニングの意味や必要性を知り、園児と共に保育教諭自身も主体性をもって取り組む。</p> <p>みんなのアイデア箱を設置し、園内研修の充実を図る。毎月ある園研のうち、数回は職員が自ら課題を掲げ、意見を出し合い、計画し、行動する。そして振り返り、次につなげていけるような時間とする。</p> <p>基本的なことは継続しつつ、視点を変えた見直しや実践、一歩前進の心掛け、かつ協力的体制で取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具、玩具など取り出して遊ぶことができる人的・物的環境を整える。 ・道具などの安全面は、危険だから自由に使わせないという考えでなく、きまり、約束のもと経験を積み重ねられるようにする。 ・職員間で気軽に助言し合える雰囲気づくりに努める。 ・職員一人一人が了解的言葉掛け、提案的言葉掛け、信頼的言葉掛けを意識し、勇気づける7つのコツを各クラスに掲示し実行する。 ・保育活動や行事の目的は何かを考慮し、最善の策を考えていく。地域の方、小学校と非接触型の交流の仕方がないかを模索する。